



串木野高校校長です。2月も早いもので後半です。学年末考査が本日まで実施されました。

今回のテーマは、「**場に敬意を示すこと**」です。

●今回の通信は、「礼」に関する話です。

例えば、道場で行われる競技をみていると、選手一人一人、道場に入るときに、深く一礼してから入っていきます。これは絶対に必要なことですよね。**場に対する敬意**がきちんと示されています。稽古や試合が始まる前に、指導していただく先生に向かって、「お願いします」と一礼し、稽古や試合が終了したときには「ありがとうございました」と一礼します。これは、自分がこれから身を置き、修行をする**「場」に対する敬意**でもあります。「これからよい稽古ができますようにお願いします」と道場をお願いし、「よい稽古ができました。ありがとうございます」と道場にお礼を申し上げているわけです。



(AI生成の画像です。微妙に変ですね。↑)

野球では試合開始の時にピッチャーが帽子をとって一礼します。あれはアンパイヤの方々に「審判よろしく」と合図を送っているわけではありません。あの所作は、グラウンド・ボール・選手らに向かって「これからしばらくの間、最高のボールゲームができますように」と敬意を込めて祈っているように見えます。

道場や、体育館や、グラウンドに対して、自らを高める場として立ち上げるために必要な条件は一つです。それは「敬意」を示すこと。それぞれの**場に対する「敬意」**が示されることによって、一人一人にとっての心身の鍛錬の場が立ち上がります。

朝夕に、串木野高校の校門を通るとき、「お願いします。」と一礼し、学校が終わって下校する時「ありがとうございました。」と門のところで一礼する生徒をよく見るようになりました。ある先生が、「門礼」という話題にしたところ、生徒会でも賛同してくれ、多くの生徒が現在は、ごく自然な形で行うようになっています。



本校は鹿児島県立の公立高等学校です。公共の場として開放されていますが、門礼している生徒たちは、この公共の場を、ある意味、神聖な、修養の場として考えてくれているということでしょう。**「場に敬意を示す」**という行動を喜びたいと思います。学校教育の条件というのは、「場に対する礼を示すこと」。それだけです。それがクリアされていれば、各々が求めていることは、例えば、進学であれ、就職であれ、学力向上であれ、友人関係であれ、おおむね善き方向に向かうことでしょう。



古代中国で、君子の学ぶ教科として「六芸(りくげい)」というものがあります。「礼、楽、射、御、書、数」という六教科です。六芸の極意とは、「意を通じ難い他者と、いかにしてコミュニケーションを成り立たせるか」に尽きるようです。他者とどう折り合いをつけるかという実践的な技術が「六芸」です。

しかも、その六芸は「礼」、つまり、上記のように話題にしてきた「敬意」から始まります。あらゆることの機軸をなすものなのですね。今回は、**場への敬意**をテーマに書きました。(全て、AI生成の画像を利用しました。)

●**「串高お祭り盛り上げ隊」**として活動してくれている2年生4人に取材があり、2/18火に、NHK 全国ニュースで放送されました。校長室で見えていましたが、東京在住の友人がすぐに連絡をくれ、応援してくれました。



3/2のガウンガウン祭りでお菓子の菊屋さんとコラボして、ケーキ・クッキーの販売があります。地元愛の熱い取り組みですね。試食させてもらいましたが、「とても美味しいです！！」是非、保護者の皆さまもお越しください。

串木野高校 頑張っています。

校長 堂蘭